

# 文化財表示板について

宇都宮市では、歴史や文化財を次世代に伝えるとともに、歴史の薫りのする魅力あるまちを創造するために、市内を7つのエリアに分け、文化財表示板を設置しています。

**B 大谷地区**  
エリア名称：『石の里』



城山・国本地区を代表する文化財である大谷磨崖仏を図案化したものです。

F 日光街道沿い地区  
時代を刻む道・日光街道



G 河内・上河内地区  
奥州道中と伝統文化の里



E 北山・長岡地区  
まほろばの里



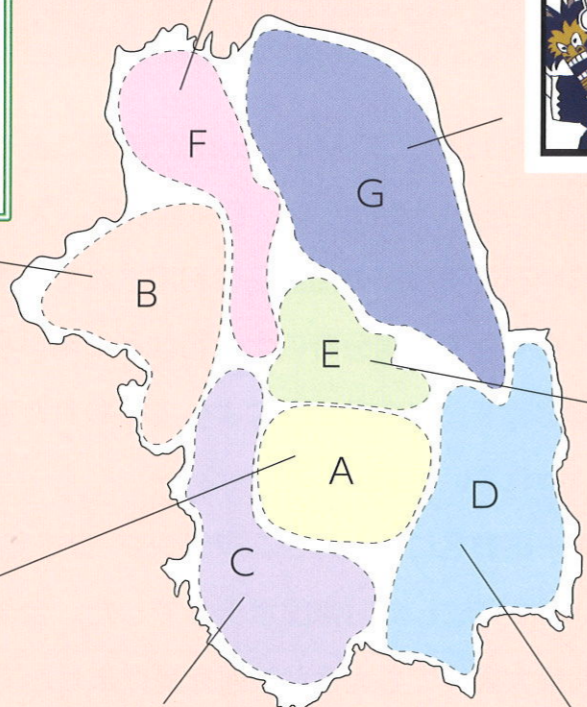
D 市南東部地区  
武士の夢ヶ原



C 根古谷・市南部地区  
古代史の回廊



A 市中心部地区  
宇都宮の軌跡



## ◎説明サイン

文章や写真・絵図によって、指定文化財について、紹介しています。



## ◆誘導サイン

コース沿いの見どころの近くや道路が分岐する付近に立っています。矢印と文字情報で行き先を案内します。



(平成29年7月)

銅 灯 籠 [大谷寺] ■■■ D・5



この八角形の銅灯籠は、1716(享保元)年に河内郡新里村の高橋善左衛門吉勝が寄進したものであり、宇都宮の鑄物師である戸室将監藤原元蕃によって鑄造されたものです。

多くの意匠を駆使し、均整のとれた安定感のある灯籠であり、地元鑄物師の高い鑄造技術を表す作品です。

[昭和63年3月22日 市指定]

銅 鐘 [大谷寺] ■■■ D・5



この銅鐘は、大谷寺中興第4世応賢が願主となり、1695(元禄8)年に宇都宮の鑄物師である戸室重郎兵衛藤原定国に鑄造させたものです。

小形であるが、端正な形に古様の様式が見られます。

[昭和63年4月3日 県指定]

銅 製 鱧 口 [大谷寺] ■■■ D・5



鱧口とは、神社や寺の正面の軒下につるして、参拝者が布で編んだ太い綱を引いて鳴らす鐘で、下方が横に長く裂けています。

この青銅製の鱧口は江戸時代の前期の1667(寛文7)年に作られたもので、制作年号を刻んだ鱧口では、現在のところ、宇都宮市内で最も古いものです。なお、つるす部分を耳といい、その多くは半円形や弧状ですが、これは蕨手状になっています。

[平成7年3月22日 市指定]

木造薬師如来立像  
(羽下薬師) [能満寺] E・6



この像は、カヤの一木造りです。重みのある堂々とした姿や、おだやかで静かな表情などは、平安時代の初期の作を思わせます。しかし、眼の表情や衣の襞は丸みをおび、両袖が波打っていることから、平安時代中期の作と思われるます。

なお、この仏像は市内の下荒針町羽下の薬師堂に安置されていましたが、平成6年、破損していた足や両手首を修理し、ここへ移されました。

[昭和32年1月12日 市指定]